
大切なあなたへ

星野由香里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大切なあなたへ

【Nコード】

N4481Y

【作者名】

星野由香里

【あらすじ】

短編と詩などです。コナンの話Okです。

作者から（前書き）

星野由香里です。

連載しました。

宜しく願います。

作者から

初めまして。星野由香里です。
ついに短編or詩を出しました。
皆様からのリクエスト
お待ちしております。

この短編集をやろうと思ったのは、
いい加減連載したい、どうすればできるのだろうか？
と考えていた時でした。

短編集ならできるっと思い
書かせていただいてる詩や短編を
やらせていただこうと思いました。
皆様からのコメントが

この星野由香里に元気をくれました。
ありがとうございます。
これからよろしく願います。

H
 2
 3
 $\cdot$
 1
 1
 $\cdot$
 1
 2
 $\cdot$
 $\pm$

作者から（後書き）

これからもよろしく願います。

星空（前書き）

今回は詩です。

星空

夜空を見上げると
星たちが光っている
自然の中光っている
どんなに小さな星でも
光っている

光が星たちを
美しくさせる
なんてきれいなんだ
星は星座となり照らしてる
その星を眺めよう

自然のなか光っている星達は
美しくなっている
夜空は銀河みたいだね
星を見落としても
見えてくる

星が輝いていなくても
違う星が見えてくる
だから星を眺めて
いろんな星を見よう

小さな星や大きな星も
あるけれど
個性があふれている
だから見落とさないで
光っているから

どんなに小さな光でも
星は光っている
わからなくても
小さな星は
ずっと、ずっと
輝き続ける

輝き続けるから

星空（後書き）

また感想お待ちしております。

夢（前書き）

またもや詩です。

夢

人の夢ってどんなの
それは人にしかわからない
夢があることはいいこと
夢を持って生きてみよう
どんなになくても
見えてくる

小さな夢も持って生きてみよう
夢をあきらめないで
どんなにちっぽけでも
夢は夢
あきらめないで

夢ってあるって聞かれてら
あなたは
どうしますか
それはあなたの答え次第
夢をバカにされても
生きてみよう

夢がなくなたって探せばいい
それが夢ってもの
わからなくなたって

歩き探せばいい
小さな夢でも
持って生きてみよう

夢がなくなったら
探せばいい
わからなくなったら
歩き続ければいい
それが夢だから

夢をあきらめないで
希望を持とう
どんなにわからなくなっても
生きる道はあるから
夢を追いかけて
夢をあきらめないで

夢を探そう

夢（後書き）

またご感想お聞かせください。
リクエストお待ちしております。

ひまわり（前書き）

詩ばっかでごめんなさい。

m

〔

m

ひまわり

夏に咲く花

明るくてまぶしいひまわり

その花がきれいだ

太陽に向かって咲いている

太陽のように

光る花が

とても美しい

光のように咲いているひまわりは

優しく包み混んでくれる

まるで太陽のように

まぶしい夏が

終わるまで咲き続けるひまわりは

温かいね

どんな時でも

咲いているね

太陽が見えなくても

太陽のところを前にして

見ている

光がひまわりを包み込んでくれる

ひまわりはきれいだね

ひまわりが枯れても
心に焼きつくから
また来年に
逢おうね

ひまわりはやっぱり
きれいだね
太陽を見つめている
だから美しい
前を向いて
前を向いて
ひまわりのように
明るく
ゆこう

ひまわり（後書き）

ご感想お待ちしております。

家で（前書き）

新蘭です。

家で

とある学校帰りのこと。

「蘭、うちによつてくか？」

「うん。行く。」

工藤邸。

「相変わらず広いわね。」

「そうか？」

「さすが道楽息子。」

「わりいかよ。」

「だんだん眠たくなってきちゃった。」

――夢――

「あれ、ここはどこ？」

「新一だ。」

「新一、新一。」

「新一待ってよ。」

「新一？」

「ねえ、どこ行くの？」

「嫌だよ、おいていかないで。」

「新一。」

「蘭、らん。」

「は、新だ。」

「大丈夫か？」

「うん。怖い夢見ちゃった。」

「寝不足か？」

「大丈夫。ねえ、新一。」

「なんだよ、蘭。」

「もう二度といなくならない？」

「バーロ、当たり前だろ。」

「よかった。」

蘭はかえっていった。

おれはあいつの前から、ぜってえ、いなくならねえ。
だって、あいつのこと愛してる。

蘭、世界で、一番愛してるよ。

家で（後書き）

新蘭です。

u s aちゃんからのリクエストでした。
お読みください。

月（前書き）

詩です。

月

夜が長くなる
月が出始める
月は太陽と違い
孤独を照らす

月の光が
孤独の僕を探してくれる
孤独を見つけてほしいんだ
孤独を照らす
月になりたい

月は心を映す
月がまるで
透きとおすように
照らされた
心は

孤独とともに
照らされてる
月が心を照らしている
心を大事に
生きて

月が心を隠しても
見抜いてしまう
だから、だから
照らしていて
月のように

月が心を照らしている
まるで光のように
孤独を歌い上げる
僕のように
孤独を
孤独を
探して

見つけて

見つけて

月（後書き）

感想お待ちしております。

歌（前書き）

詩です。

歌

歌ってどんなの
人それぞれだからわからない
人の歌は
照らしてくれる

歌を君にあげよう
悲しんだりしたら
その歌を聞いてごらん
きっと勇気が出るよ
歌を聞いて

歌はそれぞれ
違っている
でもみんなきれいだね
つらくても
歌は君のもとへ

歌を聞いてごらん
優しく聞こえるよ
どんなに小さな
希望が見えてくるよ
歌を歌おう

つらくても、悲しくても
歌は人々を

つなげてくれるから
いっしょに歌おう

歌がへたくそでも

大丈夫

みんなうまいんだよ

自信を持って

歌おうよ

君に捧げる歌を

歌おうよ

歌おうよ

歌（後書き）

感想お待ちしています。

甘えん坊（前書き）

新蘭。

甘えん坊

とある日曜日のこと。

実は蘭と新一はデートの約束をしていた。
でも……

「新一、ごめん。デート無理だよ。」

「なんで？」

「風邪ひいて、ゴホ、ゴホ。」

「無理するな、おっちゃんは？」

「お父さん、麻雀だよ。」

「俺が看病するから蘭、寝てろよ。」

「いいの？」

「大丈夫、なんとか……」

（心配だな……）

「おかゆぐらい俺にも作れるぜ。」

「えっと……これをこうして、あれをこうして。」

「あれ、あーっ焦げた。」

「ねえ、新一焦げたにおいしない？」

「気のせいだ。蘭寝てろよ。」

「うん、何か怪しい。」

「うし、できた。」

「蘭、起きれるか？」

「うん、なにこれ？」

「見ての通りおかゆだ。」

「え……。」

「これを私に食えと……。」

「ああ、わりい蘭。」

「いいわよ、ありがとう新一。」

「何とか食べれたな。」

「うん、ありがとうね。」

蘭はすっかり寝た。

蘭が寝ているときに新一は

蘭にキスをした。

甘くて優しいキスを……

蘭が起きた。

「今日はなんかごめんね、ありがとう新一。」

「気にするな、あんなへたくそな料理でわりい。」

「んじゃ、また明日。」

「うん。」

こうして早い一日が終わった。

甘えん坊（後書き）

逆バージョンです。
感想お待ちしています。

文化祭で・・・・・・（前書き）

またもや新蘭、平和です。

文化祭で……

高校の文化祭の内容は……

メイド&執事喫茶。

「蘭ちゃんかわいい。」

「和葉ちゃんありがとう。」

「なんや、工藤似合ってるで。」

「見んな、服部。」

「工藤君かっこええな。」

「それはどうも。」

「愛想悪いなあいつ。」

「ごめんね、服部君。」

「まあ、ええけど。」

「姉ちゃんも似合ってるで。」

「ありがとう。」

「それにしてもすごい客やな。」

「そうなの。新一のおかげなの。」

「新一が嫌がったんだけど、出てくれるようになったの。」

「おまえ、まさか工藤、姉ちゃんの監視か？」

「うるせー、バーロしゃあねえだろ、蘭の頼みなんだから。」

「さすが工藤君やな。」

あるオタクみたいの人が入ってきた。

「ねえ、そのお姉さん、俺たちとあそばない？」

「いいです、」

「ねえ、遊ぼうよ。」

「すいません、この人は俺の召使いなので。
つと新一がキレた。」

蘭をどこかに連れ去った。

「工藤、なかなかやるな。」

「新一待って、痛い。」

「お前な、あんな恰好二度とするな。」

「何でよ。」

「だから、いろんな奴に見せたくねえんだよ。」

つといい無理やりキスをした。

強くて激しいキスを・・・

「っっ。ぷは。」

「わかった、新一がそこまで言うなら。」

「せめて俺の前だけにして。」

「うん。」

あつという間の文化祭。

甘くて激しいキスはいかが？

文化祭で・・・・・・（後書き）

感想お待ちしております。

冬空（前書き）

詩です。

冬空

秋が終わると

冬が来る

悲しい季節が訪れようとする

冬は悲しみもある

寂しさゆえに

冬空が寂しさをぬぐってくれる

さびしいよ

君がいないから

冬は別れの季節に

冬空は切ない

冬から春になると

君に逢いたくなる

なんでだろうか

君がこんなに好きで

好きでたまらない

冬は恋の季節

なんて切ないのだろうか

悲しみが出てくるよ

悲しいな

冬が終わって春に

君に逢いたい

冬空を超えて
君に逢いたい

冬空を超えて
君に逢いたい
君に
君に

逢いたい

冬空を超えて

君のもとへ

冬を超えて

逢
い
た
い

冬空（後書き）

感想お待ちしております。

花火（前書き）

新蘭の告白です

花火

とある夏休み。

それは嬉しい夏休みの話

「新一、まだ？」

「わりい、待たせて。行くか。」

「うん。」

今日は夏祭り。

「新一、すごいよ、屋台。」

「ああ、今年こそ蘭に告白するぞ。」

「ねえ、何か言った？」

「嫌、なんでもない。こっちの話。」

蘭は不思議そうに思った。

「新一、花火綺麗だね。」

「ああ、綺麗だぜ。」

「実はさ、俺、蘭の事好きだ、昔からずっと、今も好きだ。」

「新一、嬉しいよ。あたしもずっと新一の事好きだった。」

2人は寄り添いあい、影を一つにし、キスをした。

「蘭、愛してるよ。これからも。この先ずっと。」

「あたしもずっとこの先新一を愛し続ける。」

花火が両思いの2人を結ばせた。

「「蘭、新一、大好き。」」

花火（後書き）

また感想聞かせて下さい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4481y/>

大切なあなたへ

2011年11月21日09時47分発行